



- 一、しっかり学ぶ 錦の子
- 一、よりよく生かす 錦の子
- 一、なかよく生きる 錦の子
- 一、元気でがんばる 錦の子

第73回 錦小学校 卒業式 (commencement)

6年生のみなさん、卒業おめでとうございます。厳粛な中にも温かみのある素晴らしい卒業式でした。アメリカでは、高校や大学の卒業式を Commencement (コメンズメント) と呼びます。これは、「開始」「始まり」を意味し、卒業式が学業の終わりではなく、新たな人生へのスタートということを意味します。「氷壁」や「しろばんば」などで有名な作家である井上靖さんは、「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る」と言っています。卒業生のみなさん、一度きりの人生です。自分の夢や希望を大いに語り、その実現に向かってたくさん努力してください。錦小学校の先生方や在校生は、みなさんの活躍を心から応援しています。

6年1組 担任 本澤 真弓 先生から

6年生のみなさん、ご卒業おめでとう。みなさんの成長が感じられた卒業式でした。今は、ちょっと大きめの制服も、すぐにぴったりになるのでしょうか。大変なこともあると思いますが、小学校で頑張れた

みなさんなら大丈夫です！中学校でもがんばってください。

応援しています。



6年2組 担任 田中 章仁 先生から

6年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。1年間という短い時間でしたが、みなさんと一緒に授業をしたり遊んだりすることができて、とても嬉しかったです。どんなに大変で忙しいときでも笑顔を決やさないみなさんの姿を見ていると、こちらも元気になり、パワーをもらえました。とても素直なみなさんは、先生が

「こうしよう」と言うと、いつでもその通りに実行してく



れました。卒業式では、それが最大限に発揮されました。とても感動的で最高の卒業式でした。

100点満点です！

1年間ありがとう。



歓送の会

3月17日(月)、在校生全員で6年生を見送る、歓送の会を行いました。3階の教室から1階の昇降口まで歩きながら、在校生との別れを惜しんでいました。



令和6年度 修了式

(宮っ子心の表彰)

3月24日(月)、表彰式と修了式を行いました。学年ごとに代表児童が修了証を受け取り、その後、学年を代表して5名の代表児童が作文を発表しました。受賞した児童は、右のとおりです。

学年	氏名	学年	氏名
5年	山本 龍輝	5年	枝 遥香
4年	岡本 陽菜	4年	稲葉 優
3年	森 真翔	3年	柿本 想介
2年	藤原 蓮	2年	秋山 由衣
1年	佐藤 結望	1年	江刺家 杏

一年間を振り返って

令和6年度は、月曜日の昼休みに設けた「みんなの時間」を有効に活用し、これまで以上に、児童の主体性や自律性を高めるための活動を行ってきました。特に、児童会や6年生を中心に、学校生活について話し合いをもち、廊下の歩行や持ち物について児童の意見が活かされてきたところです。また、5年生を中心に実施した6年生を送る会や6年生が企画した感謝の会などは、児童の主体性が顕著に表れたよい例であり、学校全体に活気が感じられました。

次年度も引き続き、よき伝統としてこれらの活動を継続してまいります。保護者の皆様、地域の皆様、一年間、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございました。

あたりまえのことを心をこめて実行していく

禅問答

ほとけさまの教えとは何ですか。」

ゆうびん屋さんが困らないようにね手紙のあて名をわかりやすく正確に書くことだよ。

なんだ、そんなあたりまえのことですか。」

そうだよ。そのあたりまえのことをこころをこめて実行していくことだよ。

みつを



栃木県足利市生まれの相田みつをは、独特の「書体と詩」で多くの人々に感動と勇気を与えた書家・詩人です。「にんげんだもの」「一生感動・一生青春」など、何げない言葉でありながら、深い真理を突く数多くの作品を残しました。「ほとけさまの教えとは、あたりまえのことを、こころをこめて実行していくことだよ」は、現代版禅問答と言われています。私たちの日常は、ごく当たり前のことを毎日繰り返すことであり、その積み重ねが人生とも言えます。その当たり前のことをきちんと実行すること自体とても難しいことですが、心を込めて実行するとなると容易なことではありません。フランスの作家 アンドレ・ジッド は、「平凡なことを毎日平凡な気持ちで実行することが非凡なのである」と言っています。人生において平凡なことは必ずしも小事ではなく、むしろ平凡なことを全力で成し遂げてこそ、人生の大事が成し遂げられるものです。「道は近くにあり」とも言いますが、人生の真理はいつも平凡な中にあるのだと思われまます。また、平凡とは、ごく普通で特に優れたところや変わったところがないことを言いますが、その平凡なことを毎日、平凡な気持ちのままで実行することができるということこそが、平凡でないこと、いわゆる非凡で優れていることと解釈することができます。例えば、ごみが落ちていたら拾う。汚れていたらきれいに拭く。使ったものは元に戻す。脱いだ靴はきちんとそろえる。



何かしてもらったらお礼をいうなどがあります。大リーグで活躍している大谷選手は、練習や試合中でも、落ちているゴミを拾うことで知られていますが、理由を聞かれると「人が捨てた幸運を拾っている」「自分にとって良い運も一緒に拾っている」と答えたそうです。日々、誰でも簡単にそして楽にできるかもしれないことを続けること、どんなに平凡なことであろうと、続けることをやめないこと、そんな日々の平凡な積み重ねが、後々大きな成果をもたらす可能性を秘めているのだと、改めて考えさせられました。



本校のHPは日々更新しています。最新情報はHPでご確認ください。



にっこりえがお
しっかりまなぶ
きたえるからだ